



ご存知ですか？ 薬の飲み合わせ！



薬は病気を治すために必要なものですが、飲み方を間違えると効能が弱まることもあります。特に複数の薬を飲んでい
る場合、複数の薬の成分どうしが反応して、予想外の強い作用が出たり、反対に薬が効きにくくなる場合があります。こ
れを薬の「飲み合わせ(相互作用)」といいます。

薬の飲み合わせには、大別すると「効き目が必要以上に強まる場合」と「効き目が弱まり、治療効果が上がらない場合」と
があります。その内容は次のとおりです。

「効き目が必要以上に強まる場合」

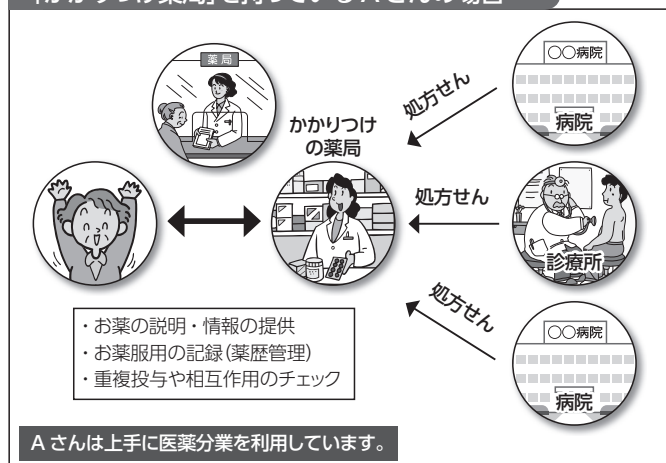
- 似た成分の飲み合わせ……処方された風邪薬と市販の鎮痛剤など似た成分の薬の組み合わせでは、強い眠気、胃腸障害な
どが起こります。
- 分解を妨げる飲み合わせ…薬は肝臓で分解され、適度な濃度になって体内へ送りだされますが、薬どうしの成分で分解が阻
害され、体調を崩す場合があります。

「効き目が弱まり、治療効果が上がらない場合」

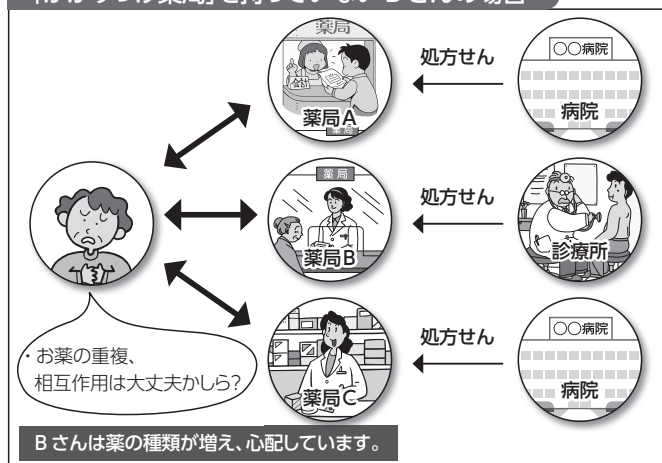
- 相反する作用の薬の飲み合わせ……お互い効き目を消しあってしまい、治療効果がみられなくなることがあります。

また、薬どうしだけではなく、食べ物やサプリメントでも影響する場合がありますので、このような飲み合わせを防ぎ薬
の効果を上げるには、自分で飲んでいる薬について知っておくことも大切ですが、薬をもらっている薬局で管理してもら
いましょう。特に診療科が複数で違う薬局で薬をもらうと管理が別々になり相互作用が起きやすくなります。できるだけ薬
局はひとつにまとめ「かかりつけ薬局」をもつことが薬のトラブルを防ぐ近道です。

「かかりつけ薬局」を持っている A さんの場合



「かかりつけ薬局」を持っていない B さんの場合



かかりつけ薬局にはどんな薬局がいいの？

- ①自宅または勤務地に近いところにある(単身者でなければ自宅の近くがよい)。
- ②服薬の回数や方法、症状が治まったときの対処などについてわかりやすく説明してもらえる。
- ③ジェネリックへの切替えや薬のことはなんでも相談できる。
- ④必要に応じて医師に確認してもらえる。
- ⑤長時間待たないで済む。
- ⑥明るく、清潔感がある。



かこいがかかりつけ薬局の利用法

- ①まずはかかりつけ薬局を決めよう
医療機関ごとに別の薬局を利用しているなら、まずは自分のかかりつけ薬局を決めましょう。
- ②お薬手帳を活用しよう
処方された薬の説明を記入してもらうだけでなく、その薬を飲んだときにアレルギーが出たことなどを記入しておけば、薬のトラブルが防げます。また災害時などにも役に立ちます。
- ③薬が余っているときは申し出よう
飲み忘れた薬がたまっているようなときは、薬の無駄を出不さないためにも申し出ましょう。
- ④飲み合わせや食べ合わせについて相談しよう
処方薬同士であれば薬剤師から説明されますが、市販薬やサプリメント、嗜好品、食べ物などと飲み合わせが悪い薬もあります。

お問い合わせ先 保険課 ☎048-822-3306